



①出場チームを代表して、本市の鈴木隊長が「操法に当たっては、消防精神を深く認識し、正々堂々実施します」と選手宣誓②ウォーミングアップ終了後、本番でベストを尽くせるよう最終調整をする③緊張が高まる本番直前。選手に声をかける隊員。「いつもどおりで大丈夫」④競技開始。半年間の努力と思いを、50秒わずかの時間に込める⑤競技終了後、涙を流して抱き合う隊員たち。その涙は悔しいものではなく、「心一つ」にした半年間の「思い」の証



開会。登米市は出場順24番中20番目で、競技開始から約3時間後の出場。早めに昼食を取り、出場1時間前からウォーミングアップを開始する。選手それぞれが自分の動きを確認。支援に回った隊員たちは、選手の動きをチェック。注意点を的確にアドバイスする。徐々に緊張感が高まっていく。

### 競技開始10分前、大会コース入り

選手全員で円陣を組み意志統一、選手をコースに送り出す。午後1時40分、競技開始。

応援団に緊張が走る。審査員の合図の後、櫻井指揮者の「操作始め」の号令で一斉に動き出す。選手たちの動きに固さは見られない。二つの標的が落下、大きなミスはなく無事終了。タイムは55秒72、得点69点。誰もが緊張する大舞台で、ベストタイムを更新。上位入賞を期待したが、結果は惜しくも15位。しかし、敢闘賞を受賞した。

競技終了後、引き上げてきた選手の中には涙が。その涙は、選手だけではなく、隊員、消防団員、市職員など、全ての登米市関係者の目にも浮かんでいた。



# 新たな挑戦

全国女性消防操法大会に、宮城県代表として出場し、46チーム中、15位と好成績を残した登米市女性消防隊。本市からの出場は、豊里町婦人消防隊以来27年ぶりのこと。チーム結成から大会までの半年間を追う。

## 第22回全国女性消防操法大会

大会(同実行委員会主催)は10月15日、神奈川県横浜市横浜消防訓練センターで開催され、登米市女性消防隊(鈴木かず江隊長)は宮城県代表として出場した。宮城県代表は、県内全域の消防力の向上を目的に各地域の輪番で出場。登米市勢としては、1988年の第4回大会の豊里町婦人消防隊出場以来、実に27年ぶりの出場となった。宮城は強豪として名が知れており、豊里町婦人消防隊、一

昨年出場の大和町女性消防隊は共に優勝している。「優勝旗を次の県代表に引き継ぐ」を合言葉に、半年間訓練に取り組んできた鈴木隊長以下、9人の隊員たち。大会は見事な秋晴れの下、華々しく

全国女性消防操法大会：地域での防災意識を高めようと、消防庁と日本消防協会が隔年で開催。全都道府県代表の47隊が出場し「軽可搬ポンプ操法」で競われる。ポンプ操法は、20分のホースを3本つなぎ、さらに停止線から10分先の二つの標的に放水、落とすまでの時間と正確な技術などを審査される。

### 消防団



登米市消防団 佐々木敏朗会長

より上位へとの思いから、若手中心のメンバー編成をするチームは少なくありません。そのような中、20~50代がいる「当たり前」の編成で、この結果を出した彼女たちは登米市消防団の誇り。男性でも厳しい訓練を、母として、妻として、社会人として、半年間頑張ってくれたことに感謝しています。

### 関係者に聞く

隊員の皆さん、大変お疲れさまでした。半年間の訓練の成果を見事に披露してくれました。出場順が後ろから5番目と、集中力の維持が難しい順番にも関わらず、大きな失敗もなく、登米市「火消し女子」の気概を見せてくれました。これまで、協力いただいた1600人の団員の皆さんに感謝します。

### 女性消防隊OG



森高清美さん (豊里町西二ツ屋)

私たちが、豊里町婦人消防隊として出場した時とは、時代や条件が違い、大変だったと思います。当時の隊員のほとんどは、自営や専業主婦で、日中に訓練ができませんでした。本番独特のプレッシャーは、出場した人間でなければ分かりません。そのような中、ベストタイムを更新するのは大変なことです。

### 消防本部



登米市消防本部 佐々木建待消防長

### 隊員家族



高野正彦さん (神奈川県横浜市)

姉が、登米市の指揮者として出場するので応援に来ました。私も、10年ほど前から横浜市消防団に加入。団員として活動しています。ウォーミングアップを見たときは、動きに固さが見られ、少し不安になりました。しかし、本番では大きなミスもなく、よい操法だったと思います。